

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区森下3-18-10
施設名	あゆみ保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

色の探求活動

〈テーマの設定理由〉

絵の具の活動に対して消極的な子どもがいる一方で、好きな色が紫という子も多く混色に対して興味・関心を抱いていると感じる場面が以前からあった。そこで、絵の具を中心としながら色を混ぜたらどうなるか探究したり、食紅を用いて着色した色水や寒天を使って遊ぶ中で、興味をもって関わる姿につながっていったらという思いから色というテーマにした。

2 活動スケジュール

<5月～8月頃>
絵の具遊び・絵の具を使った制作
・ポンポンアート（ビニール袋と絵の具を用いての制作）
・描画（クレヨンと絵の具）
・スイカ・ひまわり制作（紙皿・紙コップを用いての制作）
・スクラッチ技法

<6月～9月頃>
寒天・アガー・水と食紅を使った色遊び
・色水遊び、ジュースやさん
・フィンガーペインティング、全身で絵の具を楽しむ

<9月～1月頃>
朝顔など花の色から抽出する色遊び
・朝顔の染め出し
・朝顔氷の作成
・かぼちゃの色だし、氷作り

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・刷毛・筆・食紅・絵の具・寒天・アガー・紙コップ・紙皿・ストロー・プール・ジャグ・ボール・透明コップ・泡立て器・コーヒーフィルター・すりこぎ・すりばち・ろうと・朝顔の種・製氷皿・茶こし・活動用の個人テーブル・活動記録のためのタブレット、PC・活動報告用のスタンド、プロジェクター、スピーカー

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

絵の具遊び・絵の具を使った制作を中心としながら、水遊びができる気候の中では寒天・アガー・水と食紅を使った色遊びを行ったり、自然物から色を抽出する活動も行った。子ども自身がイメージしている色にたどり着くまで混色をしたり、イメージ通りにいかななくてもできた色の発見を喜んだりと色遊びに対して積極的になり、自分でやってみたいという意欲が以前よりも増していた。天候の関係もあり、フィンガーペインティング、全身で絵の具を楽しむ活動は1度しか出来なかったが、全身を使って楽しんでいる姿が印象的であった。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

〈朝顔での色水作り〉すり鉢・すりこぎ・茶こしを準備して朝顔から色水を作ることができると伝えると興味津々な子どもたち。色水が出来てくると「きれいないろ！」と自然から出てくる色に驚いて感動している様子だった。また色水を作っている最中に子どもから「氷にしてみたい！」との声も上がったので、製氷皿に朝顔の色水を注ぐとまだスペースがあり、「普通の氷も作って！」とリクエストもあったので一緒に作った。朝顔で色水を作った後、10月末まで園内に飾っていたかぼちゃの飾りをどうするかと聞かれたので、せっかくなので子どもと相談し、朝顔の染め出しに使ったすりこぎやすり鉢を使って色水作りに挑戦してみることにした。子どもから「朝顔の氷がどうなったのかも気になる！」とのことだったので、氷も出してみた。朝顔の氷ははじめタライに置いて溶け出すことを待ち、水を入れたらどうなるのだろうなど試していた。朝顔の氷は色が薄く、色を楽しむというよりも氷の感触を楽しんでいる様子だった。かぼちゃはそのままでは色は出なかったので、煮て柔らかくしていると、匂いにも気が付き、「豆みたいな匂いがする～」などと言いながら、朝顔の流れと同じように手慣れた手つきでつぶしていたが、中々綺麗な色が出ず、不思議そうにしていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今回すくわくプログラムに基づいて色について探求を行ったが、テーマをしぼることで普段の保育の中でも連続性が生まれ、子どもの「やってみたい！」「考えたことを形にしたい！」という思いに応えやすくなったと感じた。保育者が考えている以上に子どもは自分で思考する力をもっており、その力を存分に発揮させてあげられるかは、環境設定や関わる保育者の働きかけによるものではないかと感じた。絵の具や色水遊びに加えて、自然物の染め出しにも取り組んだが、子どもの発案に職員も面白がってどうなるかな？と一緒に取り組んでいけたのが良かったと思う。